

2005年7月1日(金) 第29回研究会(講演会)

講師:

ポータルマー・クアン博士(Dr. Po Dharma Quang)

フランス極東学院准教授、同クアラルンプールセンター首席研究員

講演題目:

「チャム写本とその整理・研究をめぐって

- フランス極東学院とマレーシア文化省による

チャム写本の保存・共有の試み - 」

通訳: 新江利彦 東京外国語大学史資料ハブ地域文化研究拠点ポストドクター研究員

本講演会においては、フランス極東学院(EFEO)とマレーシア連邦文化省(博物館・文物局)によるチャム写本の保存・共有の試みとして、まず第1に、チャム写本の種類・数量、及び書写材料の保存上の問題等に関する紹介がなされた。

第2に、チャム写本の保存・共有事業における主要な作業として、a 収集(コレクション)・b 計算機への取り込み(スキャニング)・c 計算機画面上での修復(レストレーション)に関する説明がなされた。

第3に、チャム写本の復刻(リプロダクション)特にCD-ROMによる復刻を企図するうえでの校勘の難しさ、及びチャム写本の配列の複雑さや、チャム文字の綴り字に見られるサンスクリット語・マレー語・アラビア語等の外来語起源の難解な語彙に関する説明がなされ、具体的な復刻CD-ROMの作製手順も示された。

そして、以上のことを踏まえ、ポータルマー氏から、文書の保存・共有について、各国との間でそれぞれの長所を生かした穏やかな協力関係を構築し、時間と経費を有効に使うことを通して、埋没しつつある作品の保存・共有することが提唱された。

講演後、参加者から、文書に対する各国ないし各地域の習慣に関して、宗教や社会との関連から様々な質疑が出される一方、ポータルマー氏からも、東京外国語大学における「文書学」ないし「マレー学」の位置付けに関する質疑も出され、極めて活発な議論が交わされた。

また、ポータルマー氏より、極東学院がPDF文書の形式で作成した復刻CDのうち、最新のもの3部と、復刻本4冊(物語詩3冊と歌謡・俚諺1冊)が東京外国語大学に寄贈された。